

公益財団法人青森学術文化振興財団
令和6年度事業報告附属明細書

区 分		交付決定		交付実績	
		件数 (件)	助成決定額 (円)	件数 (件)	助成確定額 (円)
青森県内の地域における学術・文化の振興に係る事業に対する助成	①地域の振興に係る研究事業 (ポストコロナ地方創生枠)	1	819,000	1	775,914
	②地域の振興に係る研究事業 (チャレンジ)	10	9,639,000	10	9,061,471
	③地域の振興に係る研究事業 (一般)	17	4,916,000	16	4,171,381
	④公開講座開催事業	25	6,082,000	25	5,625,279
	⑤学術・文化振興事業	0	0	0	0
	⑥学術図書出版事業	0	0	0	0
	小計	53	21,456,000	52	19,634,045
青森公立大学の国際交流を中心とした教育活動に対する助成	⑦人材育成事業	1	6,092,000	1	6,084,707
	⑧教員研修事業	0	0	0	0
	⑨国際交流・教育事業	0	0	0	0
	小計	1	6,092,000	1	6,084,707
合計		54	27,548,000	53	25,718,752

[青森県内の地域における学術・文化の振興に係る事業に対する助成]

①地域の振興に係る研究事業（ポストコロナ地方創生枠）

ポストコロナに向けた地方創生研究事業（人口減少対策・少子化対策、DXの推進、GXの推進）で、経済団体等と連携して行うもの

[助成決定額] 1件 819,000円
 [助成確定額] 1件 775,914円

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
1	青森公立大学	講師 巽 一樹	少子高齢社会における育児政策及び地域振興政策に関する研究事業	新規	萩原幸亮氏の招待講演では、インフラの整備や関係人口を手掛かりに兵庫県神戸町を含む自治体における事例を取り上げ、移住促進の政策について紹介いただいた。また、ワークショップでは、企業と新卒者のマッチングイベント、移住支援金制度、家賃補助制度の他に健康寿命の延伸を目的とした政策が参加者から提案があった。	ワークショップへの参加によって、青森公立大生、地域住民及び高校生の人口減少問題に対する理解が深まったことが期待される。また、参加者間における議論を通じて、今後我々が直面する問題について考える機会を提供できたことは、地域における政策提言について関心を持ってもらえた。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	819,000	775,914

②地域の振興に係る研究事業（チャレンジ）

青森県内の地域振興を目的とした研究事業で、他の大学等、行政機関、経済団体等と連携して行うもの

〔助成決定額〕 10件 9,639,000円
 〔助成確定額〕 10件 9,061,471円

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
1	青森公立大学	教授 佐々木 てる	伝統文化のアーカイブ化～青森ねぶた祭を中心に～	2回目	9月に東北伝統行事、伝統文化のアーカイブ調査を実施し、各地の文化伝承の実践方法を学んだ。また前年度に引き続き、アーカイブ研究会にて「青森ねぶた祭」文化の継承について議論し、日本オーラル・ヒストリー学会で報告した。これらのことを11月公開講座で研究報告し、調査報告書にまとめた。	作成した報告書を、県内外に150部送付予定。また大学のHPで掲載する。そのほか、学会、研究会、講義、講演などで報告予定。論文集、単著などの出版も予定している。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	1,000,000	1,000,000
2	弘前大学	助教 藤井 祥	八戸伝統野菜「糠塚きゅうり」の色変化メカニズムの解明と地域資源化に向けた研究	2回目	前年度から引き続き、収穫最適時期の緑色の糠塚きゅうりの果実と、黄色の果実を比較分析し。遺伝子発現の網羅的解析から、葉緑体独自の遺伝子に特徴的な発現変動があることを突き止めた。また、果実が黄色になる過程では光合成タンパク質の発現抑制に加えて葉緑体DNA量の減少が見出された。	2025年2月26日に八戸市農業経営振興センターにおいて本年度の事業の成果に関する報告会を行った。報告会では、八戸市農業経営振興センターの職員、糠塚きゅうり生産伝承会のメンバー、並びに名久井農業高校教員と意見交換を行った。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	1,000,000	1,000,000
3	青森大学	教授 楢引 素夫	北海道新幹線・札幌延伸への準備および北陸との協働―青函エリア発『新幹線学』構築の試みと提言（2）	2回目	5次にわたり福井、石川、富山、新潟各県の北陸新幹線駅所在地でフィールドワークとヒアリングを実施した。福井県敦賀市においてワークショップ「ottaトーク」を3回実施した。成果を「新幹線フォーラム」で実施した。事業成果報告書を制作・配付した。学会・学術誌・メディアに成果の一部を報告した。	①事業成果報告書を作成・配付・ネットで配付 ②新幹線フォーラムを開催、成果を報告 ③東北地理学会・日本地理学会（予定）で成果の一部を報告 ④青森大学付属総合研究所紀要、弘前大学大学院地域社会研究科「地域社会研究」で成果の一部を報告 ⑤NHK金沢特集番組、福井新聞寄稿で成果の一部を報告 リポジトリ等掲載：令和7年3月	1,000,000	995,901

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
4	青森大学	教授 秋田 敏博	異世代間交流学習プログラムの開発	2回目	下北地区及び外ヶ浜町において、大学生と高校生がスタッフとなり、小学生を対象とする「ぬい撮りを活用した郷土学習事業」を5回実施した。また、下北地区及び青森市において、高校生のための読み聞かせ研修を開催するとともに、大学生と高校生が連携して学童教室、こども園などで読み聞かせをする実践活動を展開した。	事業成果報告書を作成し、関係市町村の担当部署、運営協力団体及び関係高校に送付し、事業継続の際の参考としてもらう。ぬい撮り事業で小学生が作成したポスターについては、できる限り掲示の機会を設けるよう市町村に働きかけた。青森大学主催の「地域フォーラム」（むつ市で開催）で事例発表、ポスター展示をした。 リポジトリ等掲載：令和7年4月	664,000	664,000
5	青森大学	准教授 池田 哲朗	口腔ケア教育による口腔内フローラの変化の研究事業	新規	研究の倫理申請承認後、研究被験者を30名募集し、定員に達した。研究内容のインフォームドコンセントに同意後、口腔環境測定を行い、唾液を採取した。録画した口腔ケア講義、ブラッシング指導を視聴後1、3ヶ月後に口腔環境測定測定を行い、唾液を採取した。採取した唾液を用いて細菌叢解析を行った。	青森大学総研だよりで研究内容を紹介した。大学祭で研究被験者募集を行った。事業での研究被験者募集のポスターの作成、大学内での掲示。青森大学教職員および学生へのメールでの研究被験者募集の案内の送付。UMIN-CTRへの登録。口腔ケア学会でのポスター発表。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	1,000,000	1,000,000
6	青森大学附属総合研究所SDGs研究センター	センター長 藤 公晴	青い森ローカルSDGsのシナリオ創出に関する調査研究③事業	3回目	3年目となる今年度事業では、福島浜通りの宿泊研修を正課プログラムとして1回実施し、大きな効果を挙げた。また、シナリオづくりに資する先進地調査も2回盛り込んだ。	本研究事業は人づくりを軸に、ステークホルダーとその取り組みの連携化を目指すもので、成果物の還元方法の詳細については、報告書に記載し、大学の機関リポジトリへの掲載した。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	998,000	981,194
7	青森中央学院大学	教授 中村 陽一	地域の資源を活用した文化のまちづくり事業を担う人材育成プログラムの開発と研究	新規	プレ上演（6月28日～29日）後、創作に向けてのキックオフミーティング（7月13日～14日）、オンラインプログラム（7月19日、7月27日）を実施した。ワークショップ、クリエイション・広報会議、リハーサルを経て、最後に市中心地のパサージュ広場で屋外発表を行った。（8月19日～25日）	青森中央学院大学地域マネジメント研究所 研究年報第21号へ寄稿予定。SNS等でプログラムの進行状況や上演の様子を発信した。 リポジトリ等掲載：令和7年6月	1,000,000	1,000,000

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
8	青森中央学院大学 地域マネジメント研究所	所員・経営法学部教授 竹内 紀人	大学生による関係人口受入支援態勢構築に関する実証研究事業	2回目	ワーケーションアテンドを前提とした調理試行や来訪者との大学構内交流会を実施した。先進地視察では施設調査や他大学との交流を行った。公開セミナーでは、視察結果が報告された他、竹内義晴氏にご登壇いただき今後のワーケーションの展開等について議論を深めた。	ワーケーションの先進地視察状況は、上記セミナーにおいて学生が報告会を実施。セミナー実施後、本学ホームページでも実施概要を公開した。最終報告書は、本学地域マネジメント研究所の年報第21号（令和7年4月刊行）に寄稿し、本学の機関リポジトリにも掲載した。 リポジトリ等掲載：令和7年4月	977,000	423,266
9	柴田学園大学	教授 前田 朝美	腎疾患の発症予防におけるリン酸の栄養生理学的研究	2回目	動物実験を7月に行い、リン酸の多い食餌の摂取時刻と血中リン酸濃度の関係を調べた。また、片腎摘出ラットと肝障害モデルラットを用いてリン酸溶液投与後の代謝を調べた。ヒトを対象とした研究においては高リン酸食の摂取時刻の違いによるリン酸尿排泄の変化を調べた。本研究結果の一部を保健科学研究会で報告した。	開講座を弘前市（7月26日）、おいらせ町（8月20日）、青森市（8月23日）で実施し、研究紹介と腎疾患予防の啓発を行った。リーフレットを作成し、県内の高等学校49か所と開催地の自治体や食生活改善推進委員、生協の店舗等へ配布した。事業報告は大学HPの教員ページへ公開し、研究報告は学会発表と論文投稿を行う。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	1,000,000	999,880
10	八戸工業大学感性デザイン学部	准教授 東方 悠平	東南アジアのアーティストとの交流を通じ、文化活動を通じたダイバーシティ社会の推進を目的とする事業	2回目	羽鳥さん、バルトロメウスさんらを通じてインドネシアのアーティストについてのリサーチを行う他、インドネシアのスラバヤ市からアーティストのスルタン・ブトラ氏を八戸市へ招へい、約1ヶ月間滞在してもらい、ワークショップ、トークイベントなどを通じて地域の人たちと交流した。その効果を学術的に検証した。	一般市民へ広く告知をして、地域でのワークショップ、展覧会、シンポジウムを行い、海外のアーティストとのアートを通じた文化交流体験として還元した。また、参加者からアンケート等を取り、それらを集約して分析するなどして事業の実施報告を学会発表した、機関レポジトリへも投稿する。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	1,000,000	997,230

③地域の振興に係る研究事業（一般）

青森県の地域振興を目的とした研究事業

〔助成決定額〕 17件 4,916,000円

〔助成確定額〕 16件 4,171,381円

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要(事業廃止理由)	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
1	青森公立大学	教授 佐々木 てる	青森県の外国人労働力～ 第一次産業を中心に～	新規	ベトナム、ホーチミンシティにて送り出し機関、日本語学校の現状調査を行った。また青森では八戸においては監理団体の調査を行った。また青森県の第一次産業に注目し、漁業、農業の現状および、そこでの外国人労働者（技能実習、特定技能）について調べ、これらの調査結果を報告書にまとめた。	作成した報告書を、県内外に150部送付予定。また大学のHPで掲載する。そのほか、学会、講義などで報告する。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	300,000	300,000
2	青森公立大学	教授 丹藤 永也	青森県内の小中高等学校英語科における個別最適な学びに関する研究事業	新規	青森県内の小中高等学校英語教員を対象にした個別最適な学びに関するアンケート調査を実施。回答した教員数は小学校125人、中学校76人、高等学校72人であった。また講師を招聘し個別最適な学びに関する研究会を開催。県内の英語教員等42名が参加した。	11月の研究会でアンケート調査の結果の概要を発表した。また詳細については1月末に報告書にまとめ県内全小中高等学校に配布した。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	296,000	294,594
3	青森公立大学	教授 三浦 英樹	「テロワール」として捉える青森の土地空間・文化・農林水産物とそのブランディング化への試み～地形地質学と第四紀土壌学を活用して～に係る事業	新規	青森の土地空間・文化・農林水産物を「テロワール」として捉えるため、特に津軽平野と八戸を中心とする上北平野を対象に、各地域の地形発達史、考古遺跡の分布と内容、地質と土壌の分布、農林水産物、農業史に関する文献調査と現地調査を行い、対象地域を包括的な「テロワール」概念として捉える可能性について検討した。	研究対象とした地域における「環境史」と「テロワール」という概念の内容を、一般市民にもわかりやすく理解できるように工夫した解説文と図表を作成して取りまとめる。これらの結果は、一般向けの講演会やプレゼンテーション資料として活用し、青森が持つ豊かな自然と人間の知恵の歴史に関する知識の一般への普及した。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	300,000	247,360

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要(事業廃止理由)	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
4	青森公立大学	教授 長岡 朋人	青森県における文化遺産の保全と活用～人類学・考古学の先進的研究の理解増進～	新規	東京大学、東北歴史博物館等を見学し、青森の文化遺産や伝承の保全・研究に関する問題点の調査を行った。結果、青森県の文化遺産の多くは東京等の県外に移動し、地域の人々が地元でその価値を理解する機会が失われているという問題点、文化遺産や伝承の保全の機運に恵まれていないという問題点が浮き彫りになった。	本研究によって得られた知見の一部は、青森公立大学長岡ゼミの論集に掲載する計画を立てている。また、研究の成果は青森学術文化振興財団の懸賞論文や青森公立大学経営経済学部の卒業論文で発表予定である。これらの活動の様子は適宜大学のホームページで紹介を行う。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	300,000	300,000
5	青森公立大学	准教授 吉村 祥	青森県で分子職人の育成～その1～	新規	「モノづくり」を目的とした、安全で環境に優しい新規化合物の合成法をターゲットにした取り組みを行う。本プロジェクトはハロゲン分子を含む環状の化合物の合成手法の開発や物性的特徴の研究を行う。モノづくりを基盤とした取り組み方を重点的に伝え、新しい事象の解明を目指し楽しさを芽生えさせることを重視した。	「モノ（有機分子）づくり」の事業で得られた結果を大学祭のイベントにて発表する等できる限り青森県内の様々な場所で発表し、地域の方々に対して青森県で行っている「化学」の重要性やその楽しさ、必要性を宣伝した。 リポジトリ等掲載：令和6年12月	300,000	300,000
6	青森大学	教授 沼田 郷	青森県における製造業の現状と課題ーコロナ禍の影響を中心にー	新規	本事業を遂行するにあたり、関連文献および資料を収集し、コロナ禍の影響を全国、青森県、他の地域で整理した。また、企業、行政、経済団体等へのインタビュー調査を行い既存研究、資料、統計等では把握できない「現場の声」を収集した。最終的に、これらを報告書としてまとめた。	成果物は、報告書として印刷するとともに、大学リポジトリにて公開する。また、大学の講義、公開講座等で研究成果を活用する。さらに、調査を継続し、学術論文として発表することを検討している。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	300,000	212,296
7	弘前医療福祉大学短期大学部	助手 遠藤 匠	青森県内の小学校教諭を対象とした防災教育のニーズ把握事業	新規	【事業廃止】 業務多忙により当事業を実施できないため。	—	300,000	0

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要(事業廃止理由)	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
8	柴田学園大学	講師 花田 玲子	健康づくりの食事の質の評価と活用に関する研究事業	2回目	令和6年度は調理負担を中心に調査し、切り方や調味料を具体化して簡単スコアと後押しスコアに反映した。食事スコアの参考度は6割に留まったが、各スコアの参考度は前年度より向上がみられた。料理の経験値は調理負担に影響することから、食事スコアの精度向上のため、採点基準の妥当性の検討がさらに必要である。	研究成果物である食事スコアを掲載した冊子はアンケート対象者260名に配布した。また、調査協力していただいた青森県生活協同組合に900部を提供した。各生協で研修会での活用や店頭配布などにより、地域へ情報発信につながった。他340部は、本学に依頼いただく出前講座などの地域活動で地域住民に配布する。 リポジットリ等掲載：令和7年2月	300,000	300,000
9	柴田学園大学	助手 佐藤 梨沙	摂食行動を調節する嗜好性に関する研究事業	新規	実験動物にラットを用い、栄養組成や食餌タンパク質の種類が異なる6種類の食餌をカフェテリア形式で自由に摂食させ、いつ、何を、どれくらい食べるかの嗜好性を調べた。また、解剖を行い、本能的な嗜好性によって得られた食餌がからだにどのような影響におよぼすかも合わせて調べた。	学校法人柴田学園柴田学園大学ホームページに研究成果を掲載する。また、来年度以降の学会等で研究成果を発表予定である。 リポジットリ等掲載：令和7年9月	300,000	285,268
10	柴田学園大学	助手 齋藤 望	空腹感と食欲、満腹感の摂食リズムと食事摂取状況から生活習慣病予防を検討する事業	新規	朝型や夜型などの生活リズムの違いによる空腹感や食欲、満腹感の摂食リズムや食事摂取状況への影響を明らかにするため、食事調査(24時間思い出し法)と自記式質問紙法(生活習慣や食習慣、体調など)、体組成と血圧、唾液アマラーゼの測定を行った。	学校法人柴田学園柴田学園大学ホームページに研究成果を掲載する。 リポジットリ等掲載：令和7年4月	294,000	277,798

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要(事業廃止理由)	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
11	柴田学園大学	助教 古村 和歌子	市販食品における食品添加物および食品成分の実態と分析事業	2回目	昨年度行った実態調査の結果により、青森県民が特に夕食で多く食べている市販食品は餃子であることが分かった。そこで弘前市内スーパーで販売されている冷凍食品および惣菜を購入し分析を行った。分析項目は、市販食品に多く利用されているものの、食品表示の義務がないリンに着目し、商品中のリン量を測定することとした。	学校法人柴田学園柴田学園大学ホームページにより、得られた結果の情報を公開する。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	202,000	165,853
12	柴田学園大学	准教授 奥野 海良人	青森県発の微生物による腸の健全性維持に関する事業	2回目	8週齢のWistar系雄ラットに乳酸菌X株を混餌したエサを摂取させ、対照群には通常のエサを摂取させた。その後5%DSS溶液を1週間飲水させ腸炎を発症させた。これらのラットの糞便の状態、大腸の長さ、トリプトファン代謝の変動を調べたが、腸炎の症状軽減に関係する影響は認められなかった。	本研究成果の一部は9月13日～14日に埼玉で行われた第18回アミノ酸学会、および9月28日に青森で行われた保健科学研究発表会にて報告した。柴田学園高校に出前授業で赴いた際、「食べ物で腸から健康に」というタイトルで本結果の一部を示し、腸の健全性維持が健康増進に及ぼす影響について啓発した。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	300,000	300,000
13	柴田学園大学	准教授 小沼 奈緒美	青森県における乳幼児を対象とした栄養相談に関する研究事業	新規	青森県内の市町村が主催する乳幼児健康診査における栄養相談の実施状況や支援内容を明らかにするとともに、健康診査の場で指導担当者が活用できる相談記録表や指導資料を作成し、乳幼児の栄養改善に寄与した。	森県内の全市町村及び県庁、保健所、研究協力者へ報告するとともに、市町村を通じ栄養改善のための指導媒体として県民に還元する。指導媒体は、指導者がインターネットを通じダウンロードできるようQRコードをつけたものを、青森県内の全市町村及び保健所に郵送し、栄養相談にご活用いただく。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	257,000	83,592
14	柴田学園大学	准教授 飯泉 恭一	動脈硬化症の予防におけるブドウ果汁の効果 — 動物モデルを用いた検討 —	新規	高脂血症・動脈硬化症のモデル動物に6週間スチューベンジュースを摂取させたところ、動脈硬化症の進展に関わる物質(ICAM-1)の量が対照にくらべ低値を示すことが明らかとなった。このことは、スチューベンジュースの摂取が動脈硬化症の予防に効果を持つ可能性があることを示唆している。	追加の実験が必要であるが、論文として公表する。 リポジトリ等掲載：令和7年3月	300,000	300,000

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要(事業廃止理由)	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
15	柴田学園大学	准教授 伊藤 恵美子	在宅療養高齢者の食事・栄養問題について検討する事業	新規	青森県内の地域包括支援センターを対象に在宅療養高齢者における食事・栄養ケアに関するアンケート調査を実施し、その結果から青森県の在宅療養高齢者の食事・栄養ケアの実態を明らかにし、青森県の在宅療養高齢者の食事・栄養問題について今後取り組む方法について検討した。	学校法人柴田学園柴田学園大学紀要(大学ホームページにて閲覧可能)に研究成果を掲載した。アンケート協力施設の地域包括支援センターには報告書を送付した。 リポジトリ等掲載:令和7年3月	299,000	241,425
16	北里大学	准教授 長坂 善禎	牧草の草高と植生から土壌の状態を推定する技術の開発事業	新規	トラクタの屋根にタイムラプス撮影できるカメラ、超音波センサ、高精度GNSS受信機を搭載し、トラクタで牧草収穫前のほ場を走行し、下方向に向かってカラー画像を撮影すると同時に距離画像および超音波センサにより牧草の草高を計測し、位置情報をコンピュータに記録した。また計測位置の正規化植生指数を計測した。	研究成果の一部はあおもりキッズチャレンジin十和田の講演(2024年7月)、農業食料工学会の東北支部の講演(8月)で紹介した。研究成果としては、土壌の状態を十分に推測できる成果を得られなかったため、試験材料、方法、これまでに得られた方法結果についてのまとめをリサーチマップの個人ページに掲載した。 リポジトリ等掲載:令和7年3月	268,000	263,195
17	北里大学	教授 岡田 あゆみ	NGS(次世代シーケンサー)を用いたDNAによるトリカブトの種判定法の確立	新規	青森県南部地方の10地点で野生のトリカブトを採取し花の形態観察、核ゲノムのITSの部分配列の解析、NGSで検出したSNPsの多型解析を行った。SNPsによる系統解析では採取地点ごとの遺伝的集団が検出された。花の色などの外部形態との関連はなかった。海側と山側で異なる種が分布している可能性も示唆された。	年度内に学部HPに記事を公表予定。 2025年度に栽培種のサンプルを加えて分析し、学会(生薬学会を予定)にて発表予定。その後学術論文として公表する予定。 リポジトリ等掲載:令和7年3月	300,000	300,000

④公開講座開催事業

青森県内で行う公開講座で、教育、学術又は文化に係るものを開催する事業

[助成決定額] 25件 6,082,000円
 [助成確定額] 25件 5,625,279円

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
1	青森公立大学	教授 大矢 奈美	大学院公開セミナー	継続	7月4日～7月16日までの間、カダール研修室を会場として実施した。 [受講者数:101名]	地域に根ざして設立された本学には、「知」の探求と同時に、大学に蓄積された「知」を地域社会に広める重要な使命・責務がある。本セミナーは、まさに、本学に蓄積された「知」そのものを、地域に直接的に発信し、地域の人々に受けとめられることを通じて、本学の「知」を地域社会に還元する。受講者によって受けとめられた、その「知」は、地域社会の「あるべき将来像」に向けての地域の人々による諸活動の糧となることを期待する。	184,000	176,734
2	青森公立大学	教授 佐々木 てる	ねぶた学事業	継続	近年デビューした新人ねぶた師5名が、デビューするまでの苦労や経緯、ねぶた製作に対する想いを熱く語った。最終回にはねぶた名人の竹浪氏の講演と青森公立大学生による研究報告会が行われた。 [受講者数:298名]	公開講座のチラシ・ポスターを作成し、青森県内を中心に広く告知している。また、本講座を通し、新人ねぶた師の目線から青森市の伝統文化であるねぶた祭りの魅力を伝える機会となった。	300,000	300,000
3	青森公立大学	教授 佐々木 てる	経営塾事業	新規	5月23日～7月5日までの間、カダールAV多機能ホールを会場として実施した。 [受講者数:220名]	公開講座の告知をポスター、チラシで行った。青森の広報誌にて告知し、より多くの方々に参加してもらえるように工夫した。ケーブルテレビでの放送を依頼する。	300,000	300,000
4	青森公立大学	准教授 大森 史博	浅虫てつがく対話	継続	春の部は、日本近代文学を研究する横手一彦教授が「浅虫」と「太宰治」について講演を行った。秋の部は、「遊ぶこと、学ぶこと、はたらくこと」をテーマに子どもから大人まで皆で対話をし、自分の問いをつくった。冬の部は、浅虫のカフェ・アプリコットを会場にフランスから広まった「哲学カフェ」という活動を実践した。 [受講者数:73名]	公開講座のチラシ・ポスターを作成し、学校関係・青森県内を中心に広く告知している。また、本講座を通し、浅虫の魅力と対話を行うことの重要性を伝える機会となった。地域広報誌「あさむしカバシンブン」による活動報告、およびネット上での電子データの公開を行う。	232,000	232,000

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
5	青森公立大学	講師 エシアナ・ベネス	外国語講座事業	継続	9月5日～12月6日までの間、青森公立大学地域連携センター及びカダール研修室を会場として実施した。 [受講者数:79名]	近年、青森県の在留外国人と訪日外国人が急増し、このような状況において、青森県民が外国人とコミュニケーションをとり、相互理解を深める体験の重要性が増しており、外国語を学習する機会を提供することが求められる。一般的には高等教育機関での講義となる「ことばと文化」「英文学」などのテーマに関して地域の方々の教養が深まり、TOEIC講座や英語プレゼンテーション講座を通して、青森県民の潜在的な英語力向上にもつながることが期待できる。また、公開講座終了後、受講者がこれまで以上に積極的に外国人と交流することにより、青森県の更なる国際化に寄与することも期待する。	142,000	130,418
6	青森公立大学	教授 長岡 朋人	縄文と世界の遺跡を比較する～古病理学の視点～事業	新規	7月20日～7月28日までの間、県民福祉プラザを会場として実施した。 [受講者数:84名]	公開講演会により第一線で研究をしている研究者に話題提供をしてもらい、地域の皆さんに遺跡や文化財の理解を深めてもらった。地域の子どもたちから専門家の考古学者にも先進的な研究に触れてもらう機会を提供し、長期的な視点で研究の土壌を醸成する。公開講座の運営には青森公立大学の長岡ゼミの学生に参加してもらい、大学と社会をつなげる工夫を行った。	300,000	287,920
7	弘前大学	准教授 北島 麻衣子 助教 高間木 静香 助教 橋本 美亜	育児中の母親のためのリフレッシュ講座	継続	令和6年4月～令和7年2月の事業実施期間中、青森県内の子育て支援センター等において、育児中の母親を対象とした講座を計16回実施した。 [受講者数:67名]	講座の開催を通じて、教育・知的資源を地域社会へ還元すると同時に、地域の実情を把握し、その地域や対象者のニーズに合わせて講座内容を工夫することにより、地域社会から学び、それを還元できる機会となったと考えている。	173,000	160,905
8	弘前医療福祉大学短期大学部	助手 鳴海 圭佑	防ぎ得心臓突然死を減らす！～AEDの使用実態と効果的な利活用について～	新規	本事業は、AEDが一般市民に普及してから20周年という節目を記念し「AEDフォーラム」を開催するに至った。本フォーラムには、約100名の参加者が講演に参加しAEDの使用実態について学んだ。AEDの設置率に比べAED実施率が極端に低い理由や使われない要因に迫り、質疑応答では多くの質問が飛び交った。(大学生・短大生・大学院生(46) 教職員(11) 消防職員(37) 自衛隊(1) 医療機関(4) 企業(1) 約100名) [受講者数:100名]	AEDの使用実態及び課題について公開講座という形式で広く地域住民を対象に開催した。加えて、ディスカッションの時間を設けることで、些細な疑問等を吸い上げその場で疑問解消に至った。今後は、多くの地域住民に向けて心肺蘇生法を普及啓発するとともにAEDの使用実態及び課題についても啓発を進めていく。	300,000	300,000

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
9	青森大学	教授 清川 繁人	青森大学公開講座「忍者サミット」	新規	忍者は架空の存在と捉える人が多いことから三重大学山田雄司教授は文献を基にした忍者の真実の姿を紹介し、青森大学清川繁人教授は弘前藩に忍者の組織「早道之者」が実在したこととその活動実態について解説した。また、忍道青龍窟道場習志野青龍窟師範は忍道における訓練法をデモンストレーションし会場も一体となった。（来場者85名・スタッフ4名・講師3名 合計92名） [受講者数:92名]	参加者全員に青森大学発行の忍者ガイドブック（絵本）を配布し、講演内容の振り返りができるようにした。また、新聞2社、テレビ局2社から取材を受け、マスコミを通じて青森県民に忍者の真実、特に弘前藩の忍者の多様な活動を伝えることができ、今回参加しなかった人にも忍者の魅力を届けることが可能となった。	173,000	164,980
10	青森大学	青森大学付属総合研究所所長 沼田 郷 研究推進社会連携課長 阿部 慎也	青森大学付属総合研究所公開講座事業	新規	「青森県の近・現代史」と「スポーツとセカンドキャリア」に関する公開講座を実施した。前者は57名、後者は137名の参加者があり、講演のみではなく、質疑応答も活発に行われた。なお、後者についてはメディアに取り上げていただいた。（①来場者数 51名 スタッフ5名・講師1名 合計57名 ②来場者数132名 スタッフ4名・講師1名 合計137名） [受講者数:194名]	講演会を聴講してもらうことにより、地域に還元できるものとする。直接的な還元方法としては、本学ホームページ（SNS）等に事業実施時の様子を掲載するなどして、成果の還元を努める。二つの公開講座については、写真等を交えながら、大学のホームページに掲載している。	167,000	163,614
11	青森中央学院大学	地域社会活動委員会委員長・教授 成田 昌造	青森中央学院大学特別公開講座事業	継続	HASSYADAI socialの三浦宗一郎氏を講師に迎え、「人生は選べる―若者の可能性を育む地域の役割―」をテーマに公開講座を実施した。前半の基調講演に続き、後半のパネルディスカッションでは、若者支援やキャリア教育に関する議論が交わされ、若者の可能性や地域との関わりについて考える機会となった。 [受講者数:40名]	講座終了後、本学ホームページにて実施概要と写真を掲載し公開した。市民の皆様に講座の様子が伝わりやすい内容とした。	290,000	255,475
12	青森中央学院大学	地域社会活動委員会委員長・教授 成田 昌造	青森中央学院大学市町村長リレートーク事業	継続	1. 7月24日 青森県知事 宮下 宗一郎氏 講演会 宮下 宗一郎 青森県知事(参加人数184名) 2.市町村長リレートーク ①10月30日 山田 年伸 大鰐町長(参加人数113名) ②11月6日 田川 政幸 秋田県三種町長(参加人数112名) ③11月27日 山本 知也 むつ市長(参加人数130名) [受講者数:539名]	青森県内及び北東北の自治体首長を講師としてお迎えし、各自治体の先進的な取組みや現在の課題から、住民が当事者として今後の自治運営を考える機会を参加者に提供できた。また、講座実施内容を本学ホームページに掲載し公開した。	244,000	240,118

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
13	青森中央学院大学	地域社会活動委員会委員長・教授 成田 昌造	青森中央学院大学まちなかキャンパス市民講座事業	継続	看護学部教員が講師となり、「看護学部まちなかキャンパス公開講座」を6回の連続講座として実施した。まちなかキャンパス公開講座として、経営法学部教員や在籍留学生が講師となり、「異文化理解講座」を4回実施した。経営法学部教員が講師となり、教養講座を3回実施した。 ・看護学部まちなかキャンパス公開講座(看護学部):104名 ・まちなかキャンパス公開講座(教養講座):37名 ・まちなかキャンパス公開講座(異文化理解講座):56名 [受講者数:197名]	各回の講座を、本学ホームページにトビックスとして概要と写真を掲載し公開した。市民の皆様様に講座の様子が伝わりやすい内容とした。	300,000	279,289
14	青森中央学院大学	教授 竹内 紀人	アナウンス・話し方に関する公開講座開催事業	継続	青森朝日放送のアナウンサー経験者を中心に結成された「あおりボイスラボ」とのコラボレーション企画として「アナウンス・朗読」を専門的に学べる「青森中央学院大学まちなかキャンパス公開講座『アナウンス・話し方講座2024』」(全9回)を開催した。 [受講者数:165名]	公開講座実施後、講演の内容・写真を本学ホームページに掲載し、広く一般に公開した。	300,000	282,945
15	青森中央学院大学地域マネジメント研究所	所長 小松原 聡	青森中央学院大学地域マネジメント研究所ビジネスセミナー	継続	10月22日 青森中央学院大学 7号館1階 フリースペースにて、株式会社KaYM.CO 代表取締役・代表コンサルタントの橋本裕彦氏を講師としてお招きし、「ものづくりの成長戦略を考える視点:V字モデルの応用」をテーマにセミナーを開催した。 [受講者数:14名]	ソフトウェア開発の手法として用いられるV字モデルについて、ものづくりの現場で成長戦略を立てる際にどのように活用されているのか、具体的な事例を交えながら講義し、実施内容を本学ホームページに掲載し、広く公開した。	226,000	182,655
16	青森中央学院大学	教授 中川 孝子	青森中央学院大学脳活いきいきプログラム	新規	認知機能の改善、認知症の予防を目的として、地域の高齢者を対象に、運動療法、音楽療法、芸術療法、栄養教室を組み合わせた複合型プログラムを実施した。さらに、参加者が自宅で実践できるようにリーフレットを作成、配布し、認知症予防実践の継続を促した。 [受講者数:241名]	プログラムに参加した地域の高齢者の認知機能改善効果を検証した成果を、研究論文として発表するため、準備を進めている。また、本学ホームページに、プログラム実施報告を掲載し、地域に実施成果を広く周知、還元した。	282,000	231,004

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
17	青森中央学院大学	講師 菊池 美智子	青森中央学院大学「命と暮らしを考える公開講座」事業	新規	青森県の保健・看護の礎を築いた花田ミキ氏の生涯を描いた「じょっぱり看護の人 花田ミキ」の映画を上映し、命と暮らしを守ることの大切さを考える機会を設けた。上映後、映画プロデューサーの鎌倉幸子氏から、制作現場のエピソードが紹介された。続けて鎌倉氏と青森県内で活動する現職の保健師との対談を実施した。（一般参加者98名・本学看護学部生98名） [受講者数:196名]	公開講座実施後、講演の内容・写真を本学ホームページに掲載し、広く一般に公開した。	260,000	204,895
18	青森中央学院大学	教授 鈴木 寛康	青森中央短期大学公開講座事業	継続	合同会社ソナエルワークス代表、備え・防災アドバイザーであり、YouTuberとしても活動している高荷智也氏による、『死なないための防災対策』重ねるハザードマップをスマホで見よう『北海道・三陸沖後発地震注意情報』とは？発表されたらどうする？』の3部構成からなる公開講座を実施した。 [受講者数:49名]	公開講座実施後、講演の内容・写真を本学ホームページに掲載し、広く一般に公開した。	168,000	155,363
19	青森中央短期大学	准教授 森山 洋美	オレの離乳食講座	新規	本講座は子育て中及びこれから子育てにかかわる男性を对象に3回（離乳初期、中期、後期）にわたって離乳食講座（調理実習と講話）を実施し、男性の離乳食愛する知識とスキルの習得に寄与した。また、乳幼児の子育て経験のある男性管理栄養士を講師と参加者が話し合いできる場を確保、参加者動詞の交流を深める場とした。 1回目（7月27日） 2回目（10月6日） 3回目（1月25日） [受講者数:18名]	公開講座実施後、講演の内容・写真を本学ホームページに掲載し、広く一般に公開した。	276,000	180,517

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
20	柴田学園大学	教授 一戸 智之	柴田学園大学「わくわくカレッジ」	継続	<p>青森県の「教育・人づくり分野」の政策・施策に基づき、柴田学園大学の教員および学生が蓄積してきた研究成果を地域へ還元し、共創的な学びの機会を提供することを目的とした。幼児から高校生（親子も可）を対象に、多様な公開講座を実施し、地域コミュニティの活性化と子どもの健全育成に資する取り組みを展開した。</p> <p>①7月20日 「親子で楽しむ初心者キャンプ設営！～アウトドアの第一歩、テントの設営方法を学び、親子で体験してみよう～」</p> <p>②7月27日 「親子で楽しめるおもちゃ作り～作って遊ぼう！射的ゲーム～」</p> <p>③8月3日 「ドローンスポーツ！！～ドローンを使って競うスポーツゲーム～」</p> <p>④8月3日 「歌、ピアノ、楽器を楽しもう！」</p> <p>⑤1月25日 「キャップアートを楽しもう！～ペットボトルでオリジナルの雑貨を作ろう～」</p> <p>[受講者数:51名]</p>	<p>応募者の所属大学のHP等への掲載に加え、教育・公的機関への案内状の送付を行った。また、地域社会への広報活動の一環として、弘前市の広報誌「ひろさき」に開催案内を掲載いただいた（前期分のみ、後期分も依頼したが、掲載には至らなかった）。講座終了後は、大学HPを通じて、事業の趣旨および内容を市民へ公表した。</p>	268,000	246,901
21	柴田学園大学短期大学部	学長 島内智秋 地域文化センター長 安田智子	柴田学園大学短期大学部 公開講座事業	継続	<p>令和6年度は、前期9講座中8講座、後期6講座中5講座を実施した。食文化・調理、教育・ビジネス、生活・心理、子ども・保育等の専門分野から、座学・演習・実習・実技をまんべんなく、学術及び生活文化と密着した豊富な内容を開講した。子どもからシニアまで多くの方が受講し、生涯学習の機会に役立てられた。</p> <p>[受講者数:129名]</p>	<p>関係機関へチラシ頒布のほか、弘前市の広報誌、本学ホームページとInstagramで告知を行った。講座終了後は本学Instagramで成果を公表した。受講者アンケートの結果も良好であった。高校生スキルアッププログラムを通しての参加も見られ、学びの追究や地域社会と関わる体験活動として講座を開講できた。</p>	300,000	277,962

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	成果物の還元方法	助成決定額(円)	助成確定額(円)
22	八戸工業大学	教授 星野 保	菌類に関する市民向け公開講座および中高生による研究発表の実施	新規	県民の関心が高い菌類に関する公開講座を開催し、あわせて中高生による研究発表を実施した。これは、大勢かつ様々な年齢層の県民に、「学習」特に生涯学習の楽しさと重要性の認知度を高める一助となった。また、県内外の研究者による、きのご栽培などを通じた特産品開発の事例紹介は、県内生産者へ情報提供の機会となった。 [受講者数:189名]	公開講座開催会場へ直接来場し参加した地域住民に、成果物である要旨集を直接配付した。また、遠距離あるいは当日参加がかなわない県民は、オンライン中継の視聴により本事業への参加を可能とし資料などの視聴を可能とした。なお、日本菌学会第68回大会要旨集へ発表内容を含めて掲載し出版している。	300,000	300,000
23	青森中央経理専門学校	校長 石田憲久 教諭 塚本大広	青森中央経理専門学校公開講座事業	継続	11月30日、AOMORI STARTUP CENTERにて、中野晴啓(なかのアセットマネジメント株式会社代表取締役社長)氏を講師に「長期・積立・分散 NISAを活用した資産形成～生活者ひとりひとりのいい人生をつくる～」というテーマで公開講座を実施した。 [受講者数:36名]	参加者に対し、長期・積立・分散投資による資産形成のポイントやNISAのメリット等をお伝えしたことで、NISAの制度を十分に活用して資産形成を行っていくことが、これからの生活を少しでも豊かにするための一つの方策であることを参加者へ提供することができた。	173,000	156,152
24	青森中央文化専門学校	校長 石田 憲久 教諭 竹洞 春佳	青森中央文化専門学校連続公開講座事業	継続	服飾手芸の講座としてビーズアクセサリ講座を4回実施。ヴィンテージのパーツを使用したイヤリングやブローチを制作した。 [受講者数:20名]	20名の参加者に対してビーズアクセサリについて知識と技術を提供。初心者、経験者ともに新たなデザインや技法を習得することができた。	124,000	115,432
25	八戸工業大学	講師 塩入 彬允	八戸工業大学「生涯スポーツとしての卓球講座」事業	新規	地域住民に対して、運動の重要性や卓球の楽しさを伝える講座を3回実施した。子どもから大人まで幅広い年齢の方々の参加があった。 [受講者数:60名]	本事業で得られた成果は、令和6年度東北体育・スポーツ学会大会で「スポーツ系公開講座を通じた地域社会への貢献」という題目で発表した。また、本事業の詳細をまとめたものを第44巻八戸工業大学紀要に掲載予定。	300,000	300,000

⑤学術・文化振興事業

青森県内に事務所を有する等一定の要件を満たす団体が県内で行う地域の学術・文化の振興に寄与する事業 申請なし

⑥学術図書出版事業

研究の成果を発表するために刊行する学術図書の出版事業 申請なし

[青森公立大学の国際交流を中心とした教育活動に対する助成]

⑦人材育成事業

学生の留学及び短期語学研修事業（公募により行うもの）

[助成決定額] 1件 6,092,000円

[助成確定額] 1件 6,084,707円

No	助成事業者名		事業名	区分	事業実施概要（事業廃止理由）	研修期間・人数	助成決定額(円)	助成確定額(円)
1	青森公立大 学	学長 神山 博	青森公立大学学生の ニュージーランド短期語学 研修事業	継続	英語能力向上を目的とした、国立ワ イカト大学ワイカトカレッジの総合英 語 (General English) プログラムに本 学学生を派遣し、参加学生の語学 能力の向上を図るとともに、ホーム ステイ体験することによって異文化を 理解し、地域の国際交流活動に貢 献する。	[研修期間] 令和6年8月2日～8月26日 [研修人数] 13名	6,092,000	6,084,707

⑧教員研修事業

青森公立大学が行う大学教員の海外研修事業（公募により行うもの）

申請なし

⑨国際交流・教育事業

青森公立大学が行う国際交流に関する教育事業

申請なし